

評価コメント

- FOTをモストグラフを中心に小児喘息の病態解明とコントロール評価における有用性を検討し、小児の基準値を確立したことは意義がある。
- モストグラフの有用性と小児の基準値を示した点が評価できる。普及啓発も続けていくことを期待する。
- 事業全体が着実に進行しており、FOTの適切な測定条件を検討している。対象についてマスタースクリーンIOSとモストグラフについて、検討され、身長と年齢の変数での一次回帰モデルで高い寄与率が得られている。これらを利用して、肥満児での検討、治療反応性のとの比較、運動誘発発作との兼ね合い等の成績が得られており、平成25年度予定のハンドブックへの反映が望まれる。
- 研究全体が着実に進行している。FOTの小児基準値予測式が得られた。学童以降ではこれが十分に活用されると考える。困難な部分が少なくないが、乳幼児についてのさらなる検討が望まれる。順調に計画が進行しているが、抹消気道病変とFOT測定値の検討が遅れている。
- 予測式に性別が入ってこないこと、X5がlog normalの分布をすること等は呼吸生理的にみて妥当である。R5、R5/R20などについても今後はFresと共に更に検討を加えることを望む。
- オッシレーション法は侵襲がないことで小児の呼吸機能検査には適しているのかもしれない。オッシレーション法による小児の呼吸抵抗の一般的な基準値を決めることは臨床的にも有用なことである。オッシレーション法は比較的太い気管支の抵抗を反映するとされており、末梢気道の抵抗をどの程度正確に表すものか、従来のFV曲線などと比較しながらよく検討する必要がある。
- ソフト3事業で活用することを前提に実用化を図って欲しい。
- 小児のFOTに関して、測定条件を整え基準値を作成する作業を順調に遂行し、臨床に活用を図る実用的な研究である。ソフト3事業への展開が期待される。
- 気道評価ハンドブックを作成する予定であるとの事であるが簡易な実用性のあるものを考えていただきたい。